

「廃止」の約束が...

医療「新制度」



70~74歳 医療費 患者負担倍増

1人当たり年間保険料(万円)	2010年度	13年度	20年度	25年度
75歳以上の国保	6.3	7.0	8.5	9.5
健保組合	19.5	21.6	25.6	28.9
共済組合	21.7	24.5	29.1	33.0
協会けんぽ	17.1	18.5	21.6	24.3
市町村国保	9.0	9.4	11.2	12.9

*健保組合、共済組合、協会けんぽの保険料は事業主負担を含む

かつては70歳以上の患者の窓口負担は無料でした。1983年から有料化されましたが、当初は月400円(外来)の定額制でした。2000年の法改悪で定率負担が導入され、いくらかかるかわから

全世代で保険料も増加

後期高齢者医療制度に代わる「新制度」を議論している高齢者医療制度改革会議に、「廃止」を約束していた民主党中心の政権が2013年度から70歳、74歳を対象に、患者の窓口負担を順次1割から2割に引き上げる方針を示しました。また高齢者現役世代の両方に急激な保険料アップとなる財政試算も示しました。こうした患者負担増は、自民・公明政権ですら実行できなかったことです。26日の新聞・テレビで一斉に報道されたことから、高齢者への裏切り行為を続ける民主党政権に対して、怒りの声が一気に広がることは必至です。

「ない」という不安が広がりました。今回の改悪で窓口負担が倍増すれば、医者にかけられない高齢者が増え、病気になるがちな老後の不安が一層拡大されます。そのうえで、厚生労働省が示した財政試算では、すべての世代の保険料が大幅に引き上げられることとなります。現行の後期高齢者医療制度は、年齢で差別するという根幹を変えずに、75歳以上の高齢者と現役世代を別勘定にしたうえで、高齢者の医療費の一定割合を保険料でまかなう仕組みですから、高齢化率に伴って保険料が急激に上がることとなります。厚生省の試算でも、今年度と比べて15年後の年間一人当たりの保険料は、75歳以上の高齢者の場合3万2千円増加。現役世代も上表のように軒並み上がります。

保護者も地域にも知らされないままに...

嘉田県政

県立高校「統廃合」計画

1学年5学級以下なら 全日制の半分強が対象!?

統廃合対象高校 25校

守山北高校も...

学校の適正規模を1学年6~8クラスとすると5クラス以下の学校が統廃合の対象となります。(2009年度現在)

- 守山北高校
- 甲南高校、信楽高校、石部高校
- 堅田高校、北大津高校
- 草津高校、湖南農業高校
- 栗東高校、野洲高校、八幡高校、八幡商業高校
- 八日市南高校、能登川高校、日野高校
- 愛知高校、彦根西高校、彦根翔陽高校
- 伊吹高校、長浜北高校、長浜農業高校、長浜北星高校、虎姫高校、伊香高校

性急な統廃合は行わないこと
守山市議会も全会一致で意見書採択

「県立高校のあり方検討委員会」が、高校の適正規模を、これまでの1学年「4~8学級」から「6~8学級」とし、「廃止を含む大幅な統廃合の必要性がある」という報告書を昨年末に提出したことから、県立高校の統廃合計画が急浮上しています。嘉田県政は、今秋にも計画を具体化し実施にふみだす構えです。

仮に、報告書の「適正規模」以下が統廃合の対象となると、右の表のように、守山市内の守山北高校をはじめ、全部で25校。全日制46校の半分以上。生徒の募集枠を変えない場合は、7つの高校が減ります。また公立を減らし、公立と私立の割合を7対3にしようとするれば12校が減らされることになり、こうした統廃合が強行されれば、「大規模校が増え教育力の低下が心配」、貧困化が深刻なもとで、希望しても公立高校に行けない子も生まれる、「教職員の新規採用が減られる」、いまま上に競争入試と学校の序列化がすすむ、「地域経済にも影響する」などを指摘する声が出ています。

何よりも、保護者も地域にも、知らされないまま強引にすすめるのは問題です。守山市議会でも全会一致で嘉田知事に意見書をあげましたが、県内19議会のうち12議会が同様の意見書を採択、湖北では、守る会も発足して、運動が広がっています。

日本共産党 守山民報

守山市議会議員
こまき一美
TEL・FAX 582-3785
http://komaki.jcp-web.net/

党守山市くらし対策責任者
まつば栄太郎
TEL 584-3077
FAX 584-3466